

令和3年2月八戸市教育委員会定例会会議録

開催日時	令和3年2月22日(月) 午後1時30分		
場 所	市庁本館3階 議会第3委員会室		
出席者	教育長	伊藤	博章
	教育委員	大庭	文武
	教育委員	築瀬	眞知雄
	教育委員	油川	育子
	教育委員	小瀬川	喜井
事務局出席職員	教育部長	石亀	純悦
	教育部次長兼教育総務課長	橋本	淳一
	教育部次長	中村	雅臣
	学校教育課長	大館	秀光
	教育指導課長	南館	義孝
	社会教育課長	館合	裕之
	是川縄文館副館長	松橋	広美
	総合教育センター所長	竹花	和人
	こども支援センター所長	大坂	吉弘
	図書館長	田茂	隆一
	博物館長	小保内	裕之

開 会

(伊藤教育長)

定刻となりましたので、令和3年2月教育委員会定例会を開会します。

本日の議事録署名は、小瀬川委員を指定します。

それでは、はじめに私から、主な会議・行事等について説明いたします。

主な会議・行事等

(伊藤教育長 資料に基づき説明)

(伊藤教育長)

ただいまの説明につきまして、御質問などありましたらお願いします。

[質疑なし]

本日は議案の提出がありませんので、報告事項にまいります。

はじめに、「マイブック推進事業について」事務局からの説明をお願いします。

【マイブック推進事業について】

(南館教育指導課長 資料に基づき説明)

(伊藤教育長)

ただいまの報告につきまして、御意見・御質問などがありましたらお願いいたします。

(築瀬委員)

「マイブック推進事業」については、1月の定例会においても質問させていただきました。今回の定例会では丁寧な資料を準備していただき、そして詳細な報告をいただき、ありがとうございました。他の委員さんからも意見があると思いますので、簡単に全体的な部分で三つほど述べたいと思います。

いつもお話ししていますが、何事においても目先の結果や数値だけに捕らわれないことが大事であると言っています。そのことと大変矛盾した話になるのですが、今年度のクーポン使用率が昨年度より上がっており、過去最高となったとのことでしたので、このまま継続してほしいなと思っています。これまで行ってきたブックリストやポスターの工夫、ブックトークの実施などが功を奏しているのだと思います。前回も言っておりますが、事務局の企画調整に感謝したいと思います。

二つ目になります。資料の中では課題解決のための取組についても述べられています。しっかりとこれまでの課題を洗い出し、課題を基に改善していくことで、効果的にサイクルが活かされていると感じました。その取り組み方に敬意を表したいと思っています。

三つ目ですが、保護者アンケートの部分になります。大袈裟かもしれませんが、私はこの資料を読んでいて、一つの物語を読んでいるような、自然に涙が出るような、マイブック推進事業にぴったりの感想だなと思いました。このような感謝の言葉によって勇気付けられるということは、何でもそうですけれども、たくさんあると思います。こういった声を大切にして事業を進めていただきたく思いますし、是非、小林市長に

もこのような声を届けて、「本のまち八戸」、「マイブック推進事業」の推進をさらに図っていただければと願っています。

最後に、簡単な質問になります。この事業については、これまでも折を見ながら意見を申し上げてきましたが、7月教育委員会定例会の時でしたけれども、新聞社において大幅な紙面を割いて取り上げていただいた中で、書店の店員さんがお薦め本を紹介したり、アドバイスをしたりといった記事のことを発言したことがありました。今回の報告にはありませんが、書店からの声というのがあれば、お聞きしたいと思えます。

(南館教育指導課長)

書店からの声としては、クーポン使用時はお釣りが出ないので、端数については現金を追加して本を購入することを保護者に勧めても、聞き入れてもらえないケースがあるというのを聞いておりました。また、新型コロナウイルス感染状況から、今年度の実施期間を変更しております。各書店からの御理解はいただいておりますが、実施期間が4か月だと長いのではないかと声も寄せられておりますので、今後も書店との連携を図りながら、更なる充実を図ってまいりたいと思えます。

(築瀬委員)

ありがとうございました。この実施期間については、学校アンケートでもどちらの意見も半々くらいで出されていましてね。どちらの考え方もありますけれども、確かに課題かなとも思えますね。どちらにしても、こういったことは書店の協力なしにはなかなかできない事業だと思います。これからも書店との協力、連携が非常に大事になると思いますので、よろしくお願ひします。

もう一点質問ですが、保護者アンケートの感謝の声については分かったのですが、逆に保護者からの課題のような声がありましたら、教えていただければと思います。

(南館教育指導課長)

保護者アンケートでは、児童が希望する本を購入しようとしたところ、レジでクーポン対象外と指摘されて購入できなかったという声や、ブックリストに掲載されている本が書店になかった、ブックリストに掲載されている本は手に取って見ることができるよう書店に置いてほしいという声も寄せられておりますので、そのような声についても書店と連携しながら、事業の充実にも努めてまいります。

(築瀬委員)

ありがとうございました。先ほどから何度も言っていますが、今後もそういう課題を整理しながら、書店や関係機関と協力、連携して、課題解決に取り組んでいただければありがたいと思えます。

資料の中の課題を見ますと、クーポンを1枚だけ使い残した場合、500円で買える本が少ないことから、そのまま使用を諦めてしまうケースがあると載っていました。7月の定例会でも言いましたが、ブックリストには、たくさんの本の紹介がされているのですが、かなり高価なものが多いです。今回のブックリストでは「500円以下で買えるショートショートひろば」ということで、500円以下も意識している部分は認めるのですが、やはりクーポン1枚で1冊、税込500円で買えるような本の紹介についても、書店と連携して、何か工夫できないかなと感じていました。今のことについて何かあれば、お願ひします。

最後に、様々な取組を行うことはいいのですが、まずは学校への負担が大きくなるように進めていくことが、事業が長続きする大事なことだと思っていましたので、これまで同様、学校の自主性を尊重しながら、取り組んでいただきたいと思います。

(南館教育指導課長)

今年のブックリストは「本はともだち」というテーマで作成しています。500円以下の本については、冊子の最終ページの「500円以下で買えるショートショートひろば」の中で2冊ほど紹介しています。これについては、八戸ブックセンターの森様、八戸工業高等専門学校の戸田山様、市立図書館や学校司書の方々からの協力をいただいて作成していましたが、そのような本が紹介できるよう今後も連携してブックリストを作成してまいります。

(伊藤教育長)

関連質問ございませんか。

(大庭委員)

先ほどの築瀬委員の意見と重なる部分が多いのですが、まずは事務局に対して、感謝の気持ちを先に表したいと思います。ここまでの取組、本当にありがとうございました。

3ページ目に主な取組状況が書かれていますが、ブックリストの選定の仕方、三菱製紙八戸工場からの用紙の無償提供などは、だいぶ定着してきているのかなと思います。それから、ポスターの作成についても、市内の書店員さんに御協力をいただいています。さらに書店では、ブッククーポンの対象書籍をまとめたコーナーを作って、手に取りやすい状況を作っていたり、出張ブックトークでは色々な方に出向いていただき、お話をしてもらっています。資料には出てきませんが、報道関係の方にも色々な形で取り上げていただいています。そういうことをまとめますと、色々な協力の輪が広がって、それは一過性じゃなくて、積み重なった形で定着してきていると思いますので、こういうことが大切なことであり、嬉しいことだなと思います。

4ページ目には、今年度の新たな取組が掲載されています。クーポンの再発行とか、クーポンを使わなかった児童に対する注文袋の配布なんかは、この事業の本来の趣旨に^{のっ}ついた、一つの方向性であると捉えておりました。保護者アンケートの中で特に大切だと思って見ていたのは、子どもたちが自分の本を持つことができた、そして、自分で選んで購入したというところ。また、クーポンを使って、これまで買ってあげられなかった本を買うことができたという保護者の声。やはりその辺のところ、この事業の中で大事なことかなと思っています。

さらに付け加えますと、私は、家庭の事情や地理的な理由で、書店に行って本を買えなかった子どもたちへの対応が重要だと思っています。そういう子どもたちにも注文袋を使えば本が届きますので、環境に恵まれなかった子どもたちが、自分の本を本棚に置いて、その背表紙を見ながら成長することが大事だと思っているんですよ。成長して大きくなっていく中で背表紙見ながら、これはあのときの本だな、中身はこんな内容だったなと思い出すことがあるかもしれませんよね。それがその子の人生に影響を及ぼすまでは言えませんが、少なくともそういう要素がある、素晴らしい事業だと思っているんですね。私が勝手に描いた夢のような話になりますが、子どもたちにとってそういう本であってほしいと思いますし、長い目

で見れば、この事業の一つの目標でもあるのかなと考えています。

最後になりますけれども、アンケートの一番最後のところに「毎年楽しみに本を選んでいました。6年間温かい贈り物をありがとうございました。」とあります。これは、これまで取り組んでこられた皆さんへの感謝の気持ちであり、その取組に報いる本当にありがたい言葉だな思いながら読んでおりました。これまでも色々なことに取り組まれてきましたので、今以上にクーポン使用率を上げることはなかなか難しいかと思っておりますけれども、本を手にするのでできない子どもたちに、できるだけ本を渡すことのできるような、そんな制度にしていただければ嬉しいなと思います。

(伊藤教育長)

そのほか、関連質問ございませんか。

(油川委員)

私からは、感想と提案を申し上げます。この「マイブック推進事業」の本来の目的を達成するために、このようなきめ細やかな分析をありがとうございました。委員の皆様からもありましたように、保護者の皆様のアンケートを拝見したのですけれども、私が思っている以上に、子どもたちは自分で選んだ1冊の本に愛着を感じているということ、また、本を好きになるきっかけになっているということを知ることができ、この事業が果たしている役割がとても大きいということを感じました。大袈裟かもしれませんが、子どもたちの人生観を変えるような大きなものであると思いました。

クーポンの使い残しへの対応が今後の課題ということでありましたけれども、一つ提案なんですけど、アウトレット書籍なるものを活用してみたいかでしょうか。本屋さんで取り扱えるかどうかは分からないのですが、アウトレット書籍もかなりいいものがありますし、環境のためにもなると思いますので、一律500円で提供するなり、提案をさせていただきました。

御担当の皆様方が知恵を出し合って、新たな取組をなさるなど、その努力に対しまして感謝を申し上げたいと思います。ありがとうございます。

(伊藤教育長)

そのほか、関連質問ございませんか。

(小瀬川委員)

私も皆様と重複しますが、感想と感謝を一言申し上げたいと思います。今年度も使用率、執行率ともかなり高い割合となっており、またクーポンを全く使用しなかった児童の割合も減少していて、未だに工夫と改善をしながらこの事業を進めていただいていることに感謝を申し上げます。

私自身も本屋さんを足で運んで、たくさんの本の中から自分の気に入った本を選ぶということは、以前はなかなかできなかったことでありました。このクーポンが配布されるようになり、娘と本屋さんに行くと、この本は高くて買えない、これは買えるとか、そういった親子の会話が増えたことを、まさに実感しております。また、先ほど大庭委員もおっしゃっていましたが、娘の部屋の本棚には、その時買った本が未だに並んでおまして、この子はいつまでこの本を眺めながら傍らに置いておくのかな、もしかしたら、その次の世代にも読み継がれていくのかなと思うこともあり、親としても非常にすばらしい事業だなと思っ

て過ごしております。

今年度は臨時休業等によって在宅で過ごす時間も多かったですし、また新型コロナウイルス感染症対策のためにも、非常にストレスを抱えた方も多かったのではないのでしょうか。その中でも、このような事業は子どもたちの癒やしになったり、心の豊かさを育むことに役立ったりしたのではないかと考えております。

事務局では、クーポンを使わなかった児童への対応についても色々と講じてくださっていますが、本を手にとって開いてみて、欲しいものを選ぶという点に立ち返りますと、本屋さんと提携して、何かしらの可能性を考えていけるのではないかなと思ひながら拝見いたしました。

保護者アンケートの中で、「温かい贈り物」と書いてくださった方がいらっしゃいますが、本当に皆さんに喜んでいただいていることを伺い知ることができました。ありがとうございます。

(伊藤教育長)

ありがとうございました。私も長く教育長をやっていますけれども、こんなに一つの事業が教育委員の皆様が高く評価されるというのは、なかなかないかと思ひますね。それはいつも言っているように、担当が一手間を惜しまずに、本当に毎年工夫しながら取り組んでおります。毎年出る課題をどうやったらクリアできるのかと考えながら、7年続けてまいりました。すごく失礼な言い方になってしまうのですが、長く続けていくとマンネリ化してしまう場合が多いのですが、本当に実効性のある事業にしていくためには、やはり担当で常にアイデアを出していくことが必要なのです。ただ、築瀬委員も言いましたが、あまりパーセントにこだわりすぎてもいけない。極端なことを言うと、これを学校でチェックすれば、100パーセントに限りなく近くはなると思ひますが、それってどうでしょうか。この事業を始めた際の市長の願いというのは、親子で書店に行って、是非一緒に選んでほしいということでした。しかしながら、なかなか親子で行けない場合もありますので、例えば小中野小学校の場合は、学校の向かいに書店があるわけですので、そういう場合は子どもだけで行ってもいいですよと柔軟な対応をとってきました。これまでもクーポン使用率は96、97パーセントと高い割合でしたが、私に言わせれば、もう十分じゃないのかなと思ひたりもするのですが、本を買っていない児童が3、4パーセントいるというのも、実数にすると結構なんですね。市長に説明した時にも、この未使用率を実数にしたら200人くらいの児童が使っていないよねと言われて、そうだなと思ひましたね。

もう一つ危惧しているのは、このクーポンを使っていない児童の中には、もしかしたら6年間一度も使ったことのない児童が居まいかということです。担当ではあの手、この手を考えて、学校にも負担がかからないように工夫しながら取り組んでおり、アンケートでもありがたい評価をいただいています。逆に保護者によっては厳しい意見もあると思ひます。例えば、500円クーポンを100円に分けたらいいのではという声もあると思ひます。クーポンの端数の部分はプラス50円でも100円でも出してくれれば、また色んな違う本が買えると思ひますけれども、それは私たちの一方的な考え方ですので、やはりそういうことができない保護者、子どもたちに対しても考えていかなければなりません。ただ、このマイブック推進事業は、ずっと目標がぶれないで7年間やってきて、そして1年ごとに少しずつ改善し工夫してきています。私がすごいって言うのも変ですけども、今後もぜひ続けてほしい事業だと思ひますね。この件はこれで終了いたします。

次に「奇跡の鳥居」解説板の設置について」事務局からの説明をお願いします。

【「奇跡の鳥居」解説板の設置について】

(南館教育指導課長 資料に基づき説明)

(伊藤教育長)

ただいまの報告につきまして、御意見・御質問などがありましたらお願いいたします。

(油川委員)

東日本大震災の記憶というものが、年を経つにつれて風化されつつある中で、この10年という節目に日本のみならず、ポータランドにおいても震災に関するイベントをやっていただけるということが大変ありがたく思いました。

この事業の目的の中にもありましたけれども、八戸市内の児童生徒の皆さんに、このすばらしい実話を、具体的に、いつ、どのような機会に、どのような方法で伝えているのか、伝えていくのかということをお聞きしたいと思います。

(南館教育指導課長)

「奇跡の鳥居」解説板についてですが、小・中学校では防災意識を高めるために防災ノートを活用しています。下学年用、高学年用、中学生用の3種類あるのですが、その中にこの「奇跡の鳥居」の解説を掲載する予定としておりました。活用につきましては、今後、校長会を通して周知を図ってまいりたいと考えております。

(油川委員)

改訂版が出るということですが、それはいつからの予定でいらっしゃいますか。

(南館教育指導課長)

現在が三訂版になります。令和4年度の改訂版発行になりますので、令和3年度中に作成、そして校長会にもお知らせして、令和4年度からは新しい防災ノートを使って子どもたちに指導していきたいなと思っております。

(油川委員)

再来年からとなりますので、来年度の中学3年生の皆さんは改訂版が出る前に卒業されてしまいますので、その前にこのすばらしい実話を何らかの形でお届けいただければいいなと思います。ありがとうございます。

(伊藤教育長)

そのほか、関連質問ございませんか。

[質疑なし]

次に「令和2年度学校教育実践功労表彰について」事務局からの説明をお願いします。

【令和2年度学校教育実践功労表彰について】

(竹花総合教育センター所長 資料に基づき説明)

(伊藤教育長)

ただいまの報告につきまして、御意見・御質問などがありましたらお願いいたします。

[質疑なし]

そのほか、事務局からの報告事項はありますか。

[なし]

事務局からは以上のようなようです。

最後に、その他ですが、委員の皆様方からなにかありますでしょうか。

[なし]

閉 会

(伊藤教育長)

これをもって令和3年2月の教育委員会を終了いたします。お疲れ様でした。

(午後2時26分閉会)